

令和7年3月1日

第249号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】「竜子山（たつこやま）」（磐城森林管理署）

- ◎ 森林・技術等交流発表会を開催 技術普及課 ・ ・ 1
- ◎ 小笠原諸島における海岸管理の現場から
小笠原総合事務所国有林課 ・ ・ 4
- ◎ 農林水産省のいとなみと鉄道フォトコンテストの受賞作品
企画調整課 ・ ・ 6
- ◎ 森づくり最前線
天竜森林管理署 水窪森林事務所首席森林官 西秋 博 ・ ・ 7

森林・林業技術等交流発表会を開催

技術普及課

関東森林管理局では、森林・林業技術等交流発表会を開催しています。民有林・国有林双方の取組により得られた技術成果などを多くの関係者で共有・普及することを目的としています。今年度で69回目となり、都県、市町村、林業事業体、学校関係者など延べ340人（オンライン視聴者数延べ198名）の方が参加され交流を図りました。

4年ぶりの対面開催となった昨年同様に今年度も関東森林管理局大会議室を会場に対面での開催（スライド発表や特別講演の様子は当日のみオンライン配信）として、2月13日と14日の2日間で開催しました。



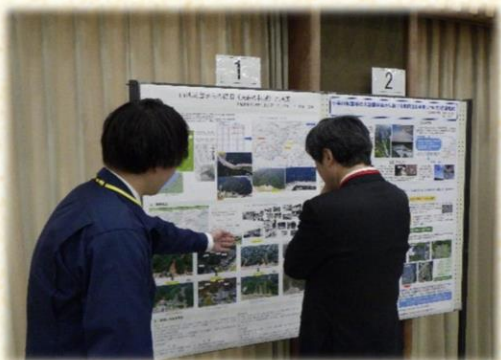
発表会場の様子



スライド発表

多くの方にご参加いただくため、スライド発表の概要とポスター発表の内容を関東森林管理局ホームページで事前に閲覧ができるようにしました。また、発表者への応援メッセージを投稿できるようにしました。

発表会には、森林管理局・署等の職員のほか、地方自治体、研究機関、大学、民間企業、学生などからスライド発表19課題、ポスター発表18課題の計37課題の発表がありました。



ポスター発表

発表会2日目には、(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所 鹿又秀聡氏による「スマート林業推進のために国有林に期待すること」と題した特別講演が行われました。

スライド発表の審査は、山梨県森林総合研究所の長池卓男氏をはじめ有識者5名からなる審査委員会により行われ、最優秀賞1課題、優秀賞5課題、民国連携賞1課題、奨励賞2課題が決定されました。長池審査委員長からは、「今回の民有林連携・ふれあい部門について、

見える化しづらい所を新しい視点でデータ化、データ解析したりと前例踏襲ではなく、より良い方向に向けた改善の姿勢が素晴らしかった。」などの講評がありました。

一方、ポスター発表は、参加された皆様より投票いただきグッドデザイン賞3課題、グッドコンテンツ賞3課題、特別賞3課題が決定されました。今回のポスター発表は、デザイン性やインパクトが強いものが多く見受けられました。参加された皆様に心より感謝を申し上げます。今後とも交流発表会を通じて新たな技術や研究成果の普及に努めてまいります。

令和6年度 森林・林業技術等交流発表会 スライド発表受賞課題一覧表

課題 番号	課 題 名	所 属	発表者及び 共同発表者	部 門
S1	ケヤキ若齢人工林の成長と土壌調査	森林技術・支援センター	安藤 博之	森林保全部門
S2	クマ剥ぎ発生要因の検討 ～多資材と環境条件の複合評価～	○森林整備センター 関東整備局 ●森林総合研究所	○江尻 史 ○前田 宗春 ●飯島 勇人	森林保全部門
S3	南会津地域におけるナラ枯れの現状と対策	会津森林管理署 南会津支署	櫻井 勝	森林保全部門
S4	伊豆署職員実行によるニホンジカ捕獲の これまでとこれから	伊豆森林管理署	藤垣 遼大	森林保全部門
S5	スギ当年生苗生産におけるペーパーポットの実用性評価と気象条件から 苗木の初期成長を予測するモデルの開発	○静岡大学農学部 生物資源科学科 4年 ●静岡大学農学部 准教授 ◇日本甜菜製糖(株) 研究員	○大岩 胡春 ●花岡 創 ◇佐々木 壮規	森林技術部門
S6	シカ捕獲のための2種の誘引式くりわなの比較	栃木県林業センター 研究部	丸山 哲也	森林技術部門
S7	栃木県におけるスマート林業の取組について	栃木県 環境森林部 環境森林政策課 環境立県戦略室	山本 俊輔	森林技術部門
S8	造林事業における大型ドローン運搬について	静岡森林管理署	宮原 直也	森林技術部門
S9	やらまいか！「齢級構成の平準化」と「新しい林業の実現」を目指して 「早生樹テーダマツの施策」	○天竜森林管理署 ●静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター	○吉村 和也 ○宮内 基好 ●福田 拓実 ●山田 晋也	森林技術部門
S10	OWLの普及を目指して！ ～下越地域における測定コスト縮減に向けた取組～	下越森林管理署	熊丸 慧	森林技術部門
S11	ドローンを活用した2度目の列状間伐の伐採方法の検討と伐採材積の 把握について	会津森林管理署	高鷲 淳一 高柳 修延 柴田 風衣	森林技術部門
S12	防護ネット柵の高機能化による造林地の獣害対策	○静岡県 西部農林事務所 天竜農林局 森林整備課 ●(株)ヤマイチネット 防獣事業部	○大場 孝裕 ●竹川 智 ●古屋敷 匠	森林技術部門
S13	有害鳥獣捕獲における錯誤捕獲防止の取り組み	群馬森林管理署	黒田 隆	森林技術部門
S14	単木柵と防草シートを活用した保育作業省力化の可能性	○利根沼田森林管理署 ●群馬県林業試験場	○小林 隆司 ●山田 勝也	森林技術部門
S15	児童の関心を引き出す森林教室	埼玉森林管理事務所	本郷 さんご 土田 梨奈	森林ふれあい・ 民国連携部門
S16	小笠原諸島における島民参加型の森づくりプロジェクト	○小笠原総合事務所 国有林課 ●小笠原グリーン(株)	○山田 大翔 ●横山 浩一 ●鈴木 遼平	森林ふれあい・ 民国連携部門
S17	イヌワシの保全につなげる木材の利活用	○赤谷森林ふれあい推進セン ター ●(公財)日本自然保護協会	○神田 駿 ●森本 裕希子	森林ふれあい・ 民国連携部門
S18	林業の認知度向上のためのイベントの創造・実施	群馬県立農林大学校 農林部 農林業ビジネス学科 2年	書上 陸斗	森林ふれあい・ 民国連携部門
S19	学校林活動による児童の森林に対する意識の 変容について－アンケート調査を活用した取組の改善－	山梨森林管理事務所	平田 和嗣 田中 裕貴 遠近 深空	森林ふれあい・ 民国連携部門

令和6年度森林・林業技術等交流発表会 ポスター発表受賞課題一覧表

課題番号	課題名	所属	発表者及び共同発表者	部門
P1	山地災害からの復旧（現在の状況）と課題	下越森林管理署 村上支署	齋藤 紘希	森林保全部門
P2	小滝川源流域の大規模崩壊地における復旧治山事業について（経過観測）	上越森林管理署	合津 菜々実 黒木 康平	森林保全部門
P3	山腹工におけるICT（UAV写真測量）を活用した出来高管理	特別賞 中越森林管理署	坂上 ちひろ 清宮 碧海	森林保全部門
P4	千葉県内の保護林における取組の紹介	千葉森林管理事務所	池田 一穂	森林保全部門
P5	芳ヶ平自然休養林の保全活動	吾妻森林管理署	中園 昭博	森林保全部門
P6	箱根・芦ノ湖風景林の針広混交林に向けた取組み	グッドコンテンツ賞 東京神奈川森林管理署	小林 智崇	森林保全部門
P7	列状植栽保育方法考察林の現況と考察	磐城森林管理署	尾関 洋	森林保全部門
P8	森林内での放射性物質の動き －放射性物質は循環しているのか－	森林放射性物質汚染対策センター	伊藤 秀晃	森林保全部門
P9	スギ次世代エリートツリー等の認定に向けた優良木の選抜 －第三世代精英樹を含む交配系統からの選抜の取組－	グッドコンテンツ賞 ○天竜森林管理署 ●静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター ◇森林総合研究所 林木育種センター	○弓削 侑季 ●袴田 哲司 ◇松下 通也 ◇田村 明	森林技術部門
P10	矢大神国有林のエリートツリー試験地について	福島森林管理署	高瀬 真里	森林技術部門
P11	ドローンを使用した薬剤散布の歩掛調査	群馬県林業試験場	山田 勝也 飯田 玲奈	森林技術部門
P12	12ヶ月未満苗の植栽後3年間の成長	グッドコンテンツ賞 日光森林管理署	角崎 和夫	森林技術部門
P13	群馬森林管理署における労働安全対策について	グッドデザイン賞 群馬森林管理署	石栗 英人 山本 啓介 井上 ともの	森林技術部門
P14	地元要望による治山施設の施工事例 －真名畑地区取水場を守る－	特別賞 棚倉森林管理署	長澤 亮太	森林技術部門
P15	シカの生息域拡大を防げ！ －八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会発足6年目－	グッドデザイン賞 ○茨城森林管理署 ●棚倉森林管理署 ◇塩那森林管理署	○菊池 毅 ○藤田 進 ●古川 登 ◇金澤 裕子	森林ふれあい・ 民団連携部門
P16	玉ねぎネット単木保護資材の普及啓発に向けた取組について	グッドデザイン賞 群馬森林管理署	小山 清二 永井 伶奈	森林ふれあい・ 民団連携部門
P17	赤面山の荒廃したゲレンデ跡地の植林活動	○福島森林管理署 白河支署 ●赤面山を緑にする会 事務局	○益子 紀之 ●金澤 隆夫	森林ふれあい・ 民団連携部門
P18	ネイチャーポジティブプロジェクトとの連携	特別賞 ○赤谷森林ふれあい推進センター ●（公財）日本自然保護協会	○栗田 喜則 ●森本 裕希子	森林ふれあい・ 民団連携部門

※令和6年度発表集については、現在作成中です。



受賞者（上段：ポスター発表者、下段：スライド発表者）

小笠原諸島における海岸管理の現場から

小笠原総合事務所国有林課

林野庁が実施している事業といえば、森林の管理を思い浮かべる方が多いと思いますが、東京都小笠原村では、海岸法に基づき、林野庁が管理者となっている海岸が多数あり、その管理も行っています。具体的な管理としては、海岸に漂着した海岸漂着物（以下、海ごみという）の回収がメインとなります。小笠原諸島の東側には環流と呼ばれる大きな潮の流れがあり、そこには世界中で排出される大量のごみが流れていきます（太平洋ごみベルトと呼ばれています）。このことから、小笠原諸島の海岸には年間を通じて、非常に多くの海ごみが漂着します。

漂着する海ごみの量は年々増加しており、小笠原諸島全体で喫緊の課題となっています。観光業にも多大な影響が生じることから、国有林課には、地元からの撤去要望が年間数多く寄せられます。

昨年7月に海ごみ回収を実施した海岸は、山のような海ごみで埋め尽くされていました。海ごみの内訳としては、ペットボトルや靴・サンダル等の生活ごみの他に、漁網や浮きブイなどの漁業関連の物も多く目につきました。

当該海岸は、陸からのアクセスができないことから、最寄りの海岸からカヤックを用いて現地に向かいます。また回収した海ごみは、傭船で港まで運搬することになります。



カヤックでの小運搬



漂着した海ごみ（撤去前）



海ごみを袋詰め

作業当日は、海岸で海ごみを袋詰めする班、カヤックで傭船まで海ごみを小運搬する班、傭船上で海ごみの積み下ろしをする班の3班に分かれ作業を実施しました。

夏の暑い日差しの中での重労働となりましたが、職員で協力して作業を進めた結果、1日で約2,000 kgもの海ごみを回収することができました。

今回の回収作業によって、海ごみで溢れかえっていた海岸が、非常にスッキリとして、本来の海岸の姿を取り戻しました。地元の方から「海岸が綺麗になって良かった。ありがとう！」との声をかけていただくと、非常に達成感があります。

国有林課では、日頃の巡視の際にも海ごみ回収を行っています。日々増え続ける海ごみの量に全く追いついていないことから、小笠原諸島森林生態系保全センターや環境省、東京都、小笠原村及び民間ボランティアのご協力をいただき、海ごみ回収を実施しております。

小笠原の美しい海岸をいつまでも維持していくため、今後も地元関係機関と協力しながら、継続した海ごみ回収を実施していきたいと思っております。



海ごみ撤去後の様子



傭船で港まで運搬

今月の表紙

「竜子山（たつこやま）」（磐城森林管理署）

竜子山は、福島県田村市と葛尾村にまたがる標高約 921mの山で、山容がとても美しく、別名「葛尾小富士」とも呼ばれます。自然豊かな登山コースが3ルートあり、葛尾村からのルートは往復約2時間で比較的穏やかなコースのため、初心者から中級者向けの山として人気があります。

主な樹種は、ブナやミズナラ、カエデなどの落葉樹が多く、これらの樹木は春や夏に豊かな緑を作り、秋には美しい紅葉を楽しむことができます。



農林水産業のいとなみと鉄道フォトコンテスト の受賞作品

企画調整課

このコンテストは、都市住民や国内外の観光客の皆様に「鉄道や路線バスを利用して都心から一歩足をのばせば、関東地域の素晴らしい景観や農林水産業のいとなみに簡単に会えることができる」ことを知ってもらうため、関東農政局の主催（関東森林管理局後援）で平成28年から開催されています。

この度、厳選なる審査の結果、令和6年度の入選作品が決定しました。ここでは「林業・里山のいとなみ」と「鉄道・路線バス」の魅力がよく表現されていると認められ、「関東森林管理局長賞」を受賞した作品をご紹介します。

【関東森林管理局長賞】



「地域の足」

撮影場所：千葉県安房郡鋸南町 鋸南町循環バス

撮影者：黒須 俊夫 氏 2024年1月

このほか、「白煙をたなびかせ（関東農政局長賞）」、「車窓から眺める（審査委員長賞）」、「冬支度（農村女性賞）」、「黄金色の中を走る（関東運輸局観光部長賞）」、「田植え中に見た景色（U-18 特別賞）」など多数の作品が選ばれました。

下記ホームページ URL から確認できますのでご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/kanto/kikaku/photocontest.html>



審査会の様子

森づくり最前線

天竜森林管理署 水窪森林事務所 首席森林官 西秋 博



中ノ尾根山方面を望む

森林鉄道は昭和 30 年に廃止されていますが、線路を再利用したガードレールや枕木、橋脚が残っているのが、今でも確認できます。

まだ重機が普及していない時代、森林鉄道や自動車を通すために人力で山を削って作られた切通しやトンネルを見ると、木材生産が盛んな当時の情熱を感じます。

地質的な特徴として、糸魚川静岡構造線と言われる断層地帯が縦断しています。静岡県と長野県をつなぐ三遠南信自動車道の建設が進んでいますが、地盤が軟弱な青崩峠トンネルは難工事で、本坑は4年の月日をかけ 2024 年 5 月によりや貫通しました。国有林においても、軟弱な地質があり、戸中山流域においては、過去に大規模な地滑りが発生したことがあります。下流に影響を及ぼさないか、継続的に経過を観察しています。また、林道においても落石や崩土が多く見られ、点検や維持管理が必要となっています。地質的に尖った落石が多く、注意して落石を除去していても、石がタイヤに刺さり、車がパンクしてしまうこともしばしばあります。そのため、用心として荷台にスペアタイヤを追加して積んでいます。



森林鉄道レールを利用したガードレール



現役の吊り橋



林野巡視中の筆者

山も急峻であり、かつてはワイヤー（架線）を張り、木材を搬出していました。谷の対岸に行くため、職員が作った吊り橋を渡ったり、標高差 500m ほどの山を登ることも日常的にあります。

天竜流域は昔からヤマビルが多い地域で、対策は必須です。林道の落石を除去していたら、いつの間にか手袋にヒルがついていたり、車のフロントガラスを這っていることもありました。

戦後の拡大造林時代に植栽された人工林が伐期を迎えています。現状では搬出が難しい立地もあり、これらの森林をどう管理していくかが課題となっています。